

養父市立大屋中学校

令和4年度 学 校 評 価

(学校自己評価・学校関係者評価)

令和5年3月31日

1 本年度の学校教育目標			
伸びよ 豊かに たくましく ～未来の郷土を切り拓く生徒の育成～			
2 本年度の学校重点目標			
(1) ころ豊かで自立する人づくり（小中一貫教育の推進、地域連携の推進） (3) 教職員の資質能力の向上（教職員の協働体制の確立、実践的指導力の向上、教職員の働き方改革の推進）			
(2) 「生きる」力を育む教育の推進（確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成・特別支援教育の推進） (4) 安心、安全で魅力ある学校づくり（生徒指導の充実、人権教育の推進、安全教育の推進、コロナ禍）			
3 学校自己評価結果 (A 良好 B 概ね良好 C やや努力を要する D 一層の努力を要する)			
学校運営	分野	評価項目・取組内容	達成状況
	開かれた学校づくり	○ 通信の発行やHPによる情報発信、オープンスクール・授業参観等の開催により「開かれた学校づくり」を推進している。 ○ 「ふるさとキャリア教育」を進める中で、生徒に地域の特性を生かした教育活動を進めている。	B ・学校だよりを作成し、学校での様子を保護者や地域に発信した。ホームページでも、生徒の活動の様子などを載せており、保護者の方だけでなく地域の方々にも学校の様子を知ってもらうことが概ねできていた。また、学年通信を毎月発行し、行事予定や学年の様子を写真や文書で伝えることができた。 ・文化祭と併せてオープンスクールを行い、多くの保護者に来校してもらった。 ・授業参観を2回行った。その中で、10月にPTA情報モラル講習会と、授業参観を行えたことは成果であった。 ・ミズバショウ公園や明延・神子畑運動場体験学習、青書院など、地域に直接出向いて学習することができた。来年度も継続していきたい。
	危機管理体制の整備	○ 防災・防犯マニュアルに沿って訓練を実施し、生徒の危機対応能力を育んでいる。	B ・防災計画に従って避難訓練等を実施した。 ・年間2回の避難訓練を実施し、特に地震に対する危機意識を高める学習を行った。また、栄養教諭を講師に迎え、非常食用のご飯調理して、食べる体験を行った。
	教職員の資質向上	○ 校内研修体制の確立を図り、計画的に校内研修を実施している。 ○ 研究授業でお互いに授業や指導方法を公開し、指導方法や指導内容の工夫・改善に努めている。	B ・小中合同で夏季休業期間中に、道徳の講師を招いて、研修会を行った。また、10月には、小学校1年生のクラスで道徳の授業研究を行い、小中合同で事後研と講師の講話を行い研修を深めた。 ・校内研修では、学期ごとに学年を割り当てて授業研究を行った。また、SCやSSWの講話を行ったり、特別支援学校から講師を招いて、研修会を行ったりした。
	勤務時間の適正化	○ 「勤務時間の適正化」によりワークライフバランスが保たれ、生徒と関わる時間の確保や自分自身の充実に図られている。	B ・教職員定時退勤日の完全実施が行われている。計画的に年休取得に取り組んだり、職務の優先順位を明確化したりして、強弱のある働き方をするよう意識改革を求めている。
教科及び教科外の学習指導	校種間連携（小中一貫教育）	○ 中学校と小学校が連携して教育活動に取り組んでいますか。	A ・小中合同研修会を3回開催した。つながり部会と授業改善部会に分かれて研修を行った。つながり部会では、すべての児童・生徒にSNSの利用について実態調査を行い現状把握に努めた。授業改善部会では、相互授業参観を実施して、小中の連携を深めた。また、小学5年生が中学校で授業を受ける乗り入れ授業も行った。6年生登校も3回実施した。
	基礎基本の定着と個に応じた指導	○ 授業時数の確保が図られ、教育課程が適切に管理されている。 ○ TT（同室複数）指導、少人数指導の運用は適正・効果的に進めている。 ○ 指導と評価の一体化を推進している。	B ・一人一台のタブレットを有効活用するべく、教科等で効果的な活用方法を模索している。 ・指導形態を工夫しながら生徒の学力向上を目指した取組を行っている。少人数に分けることが効果があるときと、同室複数が有効なとき、それぞれ場面を考えて指導ができた。 ・3観点の評価について、評定との関係を明確にした。 ・定期考査前に、学習相談日を設定して、生徒の個に応じた質問に答えるようにしている。
	人権・道徳教育の充実	○ 身近な問題や様々な体験活動から、自らの自尊感情を育み、人権意識の高揚を図っている。	B ・外部から講師を招聘して、年間2回行った小中合同研修で、教員の資質向上を図った。また、ローテーション道徳等で生徒の実践的指導力の向上を図った。
	読書活動の推進	○ 読書活動の推進が図られている。	C ・図書館開放や朝読書、お話プレゼントなどで、読書活動の推進を図っている。また、図書コーナーを新設したり、新刊紹介をしたりと工夫をしたが、読書時間の向上につながっていない。今後、学級文庫を置くなど読書に親しむ環境を考えていく。
	キャリア教育の充実	○ 生徒の発達や学年の系統性を踏まえた内容になっている。 ○ 「キャリアノート」・「キャリアパスポート」は計画的に活用している。	B ・「キャリアノート」と「キャリアパスポート」の活用について、小中9カ年を見通した指導を行っている。コロナ禍が緩和され、講師等を招聘して講演をしてもらい、より意識化されたキャリア形成を図っていく。
生徒指導・その他	情報教育	○ 教育活動全体において、ICT機器を適切かつ効果的に使用し、教育効果を高めている。 ○ 情報モラルの育成と情報活用能力の育成を図っている。 ○ 一人一台のタブレットを有効に活用している。	B ・「大屋中学校生徒会SNS利用の6か条」をもとに、SNS・ゲーム使用の3本柱について意識調査や啓発活動を行った。 ・一人一台のタブレットを活用して、欠席者に授業配信を行った。 ・授業では、動画発信や振り返り学習、表計算学習など、ICT機器を活用した。 ・外部から講師を招聘して、情報モラル講演会を行い、情報モラルの向上を図った。
	特別支援教育	○ 特別支援教育に関する理解を促す研修等が計画的・組織的に行われている。 ○ インクルーシブ教育システムの構築に向けて、施設や設備の整備、教材や指導体制等の工夫が図られている。 ○ 校内教育支援委員会のもと、個別の指導計画・教育支援計画が作成され、全教職員の共通理解のもと、個に応じた指導・支援が組織的に行われている。	B ・特別支援教育コーディネーターを中心に、一人一人の教育的ニーズに応じた個別の指導計画や個別の支援計画を作成し、それを基に特別支援教育の取り組みを進めた。 ・合理的配慮やユニバーサルデザイン等について、和田山特別支援学校の講師を招聘し講話を聞いたり、学期ごとに授業を参観してもらい指導助言を受けたりして、より効果的な指導方法を考え実践している。 ・通級指導により、対象の生徒のコミュニケーション能力の向上やソーシャルスキルの向上を図っている。
	あいさつ・掃除	○ 学校・地域の中で気持ちの良い挨拶ができている。また一生懸命掃除に取り組んでいる。	A ・縦割り班清掃により、3年生のリーダーシップが醸成されている。毎学期末に、優秀な班を環境委員会が表彰し、伝統を引き継ぐ取り組みを行っている。 ・生徒会の生活部会によるあいさつ向上の取組で、あいさつの声の意識ができた。
生徒指導・その他	いじめ防止	○ いじめアンケートによる実態把握や教育相談を通して、生徒理解を深めている ○ いじめの未然防止と早期発見に心がけた取組をしている。	B ・毎月のいじめアンケートによる実態把握、生徒指導部会による各担任や関係の職員の見取りを通して、未然防止、早期対応に心がけている。 ・毎学期の担任との教育相談や、毎日のデイリーノートから生徒理解を深めている。
	生徒理解	○ 指導に対する教職員間の共通理解、「報連相共」が十分できている	A ・日々の「報連相共」による情報共有、毎日の職員打ち合わせによる情報交換、毎週の生徒指導委員会、職員会議後に行われる生徒指導情報交換等により、十分な情報共有が図られ、生徒や保護者への対応に齟齬が起こることがないように取り組めた。
	不登校	○ 不登校生徒の早期発見・対応に心がけ、職員間で連携して指導ができています。	B ・不登校生徒には、SC、SSW等の関わりを密にもらいながら、本人の現状把握をし養護教諭、学年職員と管理職で、機動的に対策を考えながら取り組んでいる。「やまびこの郷」へのアプローチも行っているが、実現していない。
	そうあんくんの日	○ 「そうあんくんの日」に積極的に取り組み、生徒に自主的な家庭学習や読書を指導している。	C ・そうあんくんカードを作成して取組を進めているが、ノーマディアや読書の推進等の成果をあげることができていない。啓発活動を重点的に行うと共に、行い方も考えていきたい。
	新型コロナウイルス感染症対策	○ 学校にウイルスを「学校に持ち込まない、学校内に広げない」を基本に取り組む。	A ・学校行事の際、PTA役員にも協力してもらい、検温を実施した。また、日常の学校生活の中でも、手指消毒、検温、黙食の給食、感染リスクが高いと思われる、学習活動等それぞれに、感染予防対策を行って取り組んだ。

4 総合的な学校関係者評価	
コロナ禍の中であったが、様々な対策を取りながら、授業参観、体育祭、文化祭等保護者も参加できる形で、取り組んできたことは評価できる。ただ、様々な学校行事に地域の方の参加が功績でない点については、今後感染状況を見ながら、改善していく必要がある。また、大屋地域の生徒の特徴でもある、地域行事への参加が少しずつ出来るようになってきた。今後積極的に呼びかけて地域行事へ参加するように取り組んで欲しい。部活動が、来年度より全員入部でなくなり、地域移行も視野に入れた取り組みを進めるように取り組んで欲しい。部活動に全く参加しない生徒が出てくるのではないかと危惧される。そのような生徒へ学校として柔軟な対応をしていただくようお願いしたい。教職員の皆さん方の工夫や努力で生徒それぞれの力を伸ばす教育が進められていることは評価できる。不登校や登校しぶりの生徒が増加していることに危惧を感じている。丁寧な対応で、不登校の解消へ向かえるようにして欲しい。	

5 評価項目ごとの学校関係者評価	
学校自己評価の適切さ	○定期的に発行される「学校だより」やホームページで、生徒の様子がよく分かった。 ○今年度も、体育祭、文化祭が半日開催であったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を勘案すると、適切な対応であったと考ええる。今後アフターコロナを見据えて、開かれた学校づくりのために学校はどのような対策を取りながら、学校行事や教育課程を進めていくのか、しっかりとしたビジョンを持って進めて欲しい。 ○ミズバショウ公園の見学、朝倉山椒採り体験、明延・神子畑運動場見学など、地域学習を多く取り入れていることが大屋らしい取り組みなので、今後も継続して欲しい。 ○本年度のトライやる・ウィークは5日間で行われた、また、本年度に限っては、わくわくオーケストラ教室を但馬地域に限り、VBファブで行うことが出来た。兵庫型の体験学習を推進できたことは大きな成果であったと考える。
保護者・地域関係者からの評価	○本年度もトルコで大きな地震があり、6万人を越える犠牲者が出ている。どこで起こるか分からない地震などの災害であるが、いつ起こっても冷静で的確な判断ができるように訓練を行って欲しい。また、災害時の調理を見越した調理実習を今後も継続して行って欲しい。
教職員・関係者からの評価	○先生方が多くの研修を受けておられることが理解できた。年齢構成も徐々に若返ってきているので、ベテランから若手へと教育の技能をしっかりと引き継げるような取り組みを行って欲しい。 ○SCやSSWの研修は、生徒理解のために非常に重要なことであると捉えている。しっかり情報共有して研修の成果を発揮して欲しい。 ○小中合同で垣根を越えた研修が行われている。今後も継続した取り組みを行っていただき、資質校長に努めていただきたい。
生徒・児童からの評価	○完全実施が行われているとのこと。継続して取り組みを続けて欲しい。○先生方のワークライフバランスを考えた職場での校務であって欲しい。
小中合同関係者からの評価	○小中合同研修会が本年度も継続して行われていることが評価できる。子どもたちの学びは継続している中で、小中が同じ歩調で学習活動を進めていることは評価できる○6年生登校、相互授業参観、乗り入れ授業など、1小1中ならではの取り組みが進んでいると感じている。今後より一層の取組を期待している。
一人一人からの評価	○一人一台のタブレットを有効に利用して、基礎基本の定着に向けた取り組みを進めて欲しい。ドリル的なことは、タブレットを活用することで、効果的に学習が進むと考えられるので、是非効果的に活用することを期待する。「令和の日本型教育」で「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランスを取りながら学習を進めて欲しい。 ○先生が複数で授業を教えることは、生徒への教育効果が上がることでありと考える。少人数で行うか、同室複数で行うかは授業の内容や生徒の状態によって違いがあると思うので、より効果的な学習形態をその時々で考えながら学習の定着を図って欲しい。
SNS関係者からの評価	○SNSが発達した時代だからこそ、人権については慎重に、そして丁寧に取り組むことが必要であると考える。SNSのルールを小中共通で作り、周知していることは大切なことであると考える。 ○道徳の研修を小中合同で行っているとのこと、今後も継続して欲しい。
学校評価関係者からの評価	○学校評価の保護者評価で、読書活動の推進が、いい方向でポイントがアップしたと聞いた、読書活動は、様々な教育への効果が期待できる。今後も更に充実するように、取組を進めていただきたい。
地域関係者からの評価	○本年度は、地域の方を講師に招いての講演会が少なかったようである。生徒のキャリア形成を図るためにも地域で活躍をされている方を講師として招聘をすいしんすることを願っている。
SNS関係者からの評価	○SNSは、人間関係の問題や犯罪、不登校に関わる問題まで、上手に付き合えば便利で役に立つものではあるが、使い方を間違えると命まで落としかねないような問題に直面することがある。しっかりと情報モラルを伝えて、ルールに則した使い方をしていくように指導して欲しい。 ○コロナ感染症による出席停止では、リモートで授業を受けることができる。今後も欠席が学習の遅れにならないような学力保障のための使い方も進めて欲しい。
関係機関関係者からの評価	○今後も関係機関との連携を密にして、特別支援教育を推進されることを期待しています。特に、和田山特別支援学校との連携は学期に1回は必ず行って特別支援の考え方を各職員が理解するようにして欲しい。 ○通級指導の必要な生徒は、ためらわずに積極的に進めていくようにしてほしい。保護者の理解を得ることが難しくもあるが、関係機関の援助などを得ながら、保護者理解を進めて欲しい。また、現在通級指導を受けている生徒の評価もしっかりと行い、必要なスキルについて明確にしながら、通級指導担当としっかりと連携を図って進めていって欲しい。
地域関係者からの評価	○地域で中学生が大きな声で挨拶をしてくれるという情報が入ってくる。学校では生徒会中心に取り組んでいるようなので、今後も継続して取り組み、大きな気持ちの良い挨拶が誰もが出来るように取り組みを進めて欲しい。
関係機関関係者からの評価	○毎月の実態把握を今後も続け、いじめの早期発見、早期対応を徹底して欲しい。また、いじめアンケートが生徒の抑止力になるようにして欲しい。 ○今年度、適切な対応と保護者、関係機関との連携を図って推進をお願いしたい。
生徒・児童からの評価	○生徒理解だけでなく、保護者や地域の方々にも心配りをして、対応されていることに頭が下がる思いである。今後も困ったことなどあれば情報提供をいただき、協力していきたい。 ○大屋の子どもは素直である。外からの刺激に対して弱い部分があると思うので、自分を失失しないよう指導してください。
関係機関関係者からの評価	○令和4年度3学期に入って、不登校の生徒が増えたとのこと、学校に登校できるように職員全員で対応して欲しい。また、関係機関との連携を図りつつ、生徒理解をして、アプローチを続けて欲しい。
関係機関関係者からの評価	○今年度も、学年が進むにつれて取り組みが難しくなっているようだが、根気よく取組を進めて定着を図って欲しい。 ○「そうあんくんの日」のケーブル放送のアイデアは良かったと思う。自分たちも本を読もうと思った。
関係機関関係者からの評価	○濃厚接触者や感染者がでていますが、何とか学校が休校をすることなく学習を進めることが出来たことは一定の評価がある。今後5類へと移行すること、マスク着用の義務がなくなること、感染がどのように広がるかが予想できない状況であるが、適切な対応をお願いしたい。